



2012年9月6日
マツダ株式会社
OJSC ソラーズ

マツダソラーズ、ロシア合弁会社の設立記念式典を実施

マツダ株式会社(社長:山内 孝 以下、マツダ)は、OJSC ソラーズ(Sollers)社(ヴァディーム・シュヴェツォフ CEO 以下、ソラーズ)と、2012年9月6日にロシア極東連邦管区プリモリスキー州ウラジオストク市で、生産合弁会社 MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus(マツダソラーズマヌファクトウリングルース)の設立記念式典を行いました。

式典には、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領、イーゴリ・シュヴァロフ第一副首相、プリモリスキー州のウラジミール・ミクルシェフスキー知事、日本国の枝野幸男経済産業大臣、原田親仁駐ロシア日本国特命全権大使ら要人を来賓として迎え、マツダの山内代表取締役会長 社長兼CEO、およびソラーズ社のシュヴェツォフ CEO ほか、両社の関係者らも含めた約200名が列席して行われました。

式典で挨拶に立ったマツダの山内社長は、「本日はマツダの将来に重要な意味を持つ日です。APEC 国際会議開催という歴史的なイベントに時期を同じくしてこの式典を迎えられることを非常に嬉しく思っております。本日を迎えることができましたのも、ソラーズ社という優れたパートナーの存在に加え、ロシア政府およびプリモリスキー州政府、そして日本政府の多大なご支援があったからです。今日、ロシアの自動車市場は、300万台に迫る勢いで世界屈指の市場に成長しており、その中でも特に東アジア経済圏へのアクセスポイントとして、大いなる発展が期待されているウラジオストクの地にマツダは自動車メーカーの先陣をきって工場進出いたします。マツダは本工場での成功を通じて、ロシア市場での更なる成長を遂げると共に、当地がロシア自動車産業の新たな拠点として成長していくことに貢献してまいりたいと考えています」と述べました。

ソラーズのシュヴェツォフ CEO は、「この度、日本車メーカーとして初めてロシア極東に工場進出するマツダと協業できることを非常に光栄に思います。マツダの自動車生産における高い技術力と、我々の持つ地域への強み、ノウハウを生かすことで、当地の自動車産業のレベルをさらに高めていけると確信しています」と語りました。

合弁会社の工場は、2012年10月に車両組立ラインのみで操業開始し、立ち上がり時の生産能力は年間約5万台となります。また、将来的には、車体および塗装工場を新設し、10万台規模の生産能力を目指します。マツダは同工場で「マツダ CX-5」および「新型 Mazda6(日本名:マツダ アテンザ)」の2車種を生産していきます。

<ご参考: MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus(マツダソラーズマヌファクトウリングルース)の概要>

会社名	MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus
所在地	ロシア極東連邦管区プリモリスキー州ウラジオストク市
設立時期	2012年9月
社長	アレクサンダー・コルニチュック
投資額	250億円(100億ルーブル)
出資比率	マツダ株式会社 50%、ソラーズ社 50%
従業員数	約3,000人

以上